

5 歴史文化遺産の保全と活用

京丹後市の歴史や文化を 身近に感じてください

■「京丹後史博士」養成講座経費
【教育費】(継続)17万円
(教育委員会事務局 文化財保護課)

京丹後市域には、数多くの歴史文化遺産があり、後世に伝えていく必要があるため、本市では「京丹後史博士」養成講座を開講しています。これまでの調査資料や地域の歴史を学ぶことにより、京丹後市への愛着と誇りを育むことを目的とし、文化財保護課職員と外部講師により、約18講座を開講する予定です。

2年間の講座を通じて、18人のかたを「京丹後史博士」に認定しています。



京丹後史博士認定証授与式

京丹後市史を発刊します

■市史編さん事業
【教育費】(継続)1,496万円
(教育委員会事務局 文化財保護課)

本市の歴史と自然を写真や図版を用いてわかりやすく解説する本文編(全2冊)と本市に関係する文化財などを紹介する資料編(全12冊)からなる「京丹後市史」を作成します。(平成17年度～平成26年度)

本年度は、第1冊目となる(仮称)『京丹後市の考古資料』を発刊する予定です。



市史編さんの画像調査

琴引浜が国の天然記念物 および名勝に指定されました

■琴引浜国指定天然記念物および名勝石碑・境界杭設置経費
【教育費】(新規)396万円
(教育委員会事務局 文化財保護課)

平成19年7月に、琴引浜が国の天然記念物および名勝に指定されました。琴引浜が国の指定文化財になったことを、観光客をはじめ、訪れる多くのかたに知ってもらうため、名称や指定された日付を刻んだ石碑、文化財として指定された範囲を示す境界杭を国と協力して設置します。



上空から見た琴引浜

遺跡の保護・活用に取り組みます

■遺跡発掘調査経費
【教育費】(継続)1,197万円
(教育委員会事務局 文化財保護課)

市内に点在する埋蔵文化財(遺跡)のうち、本年度は3か所の発掘調査を実施します。

- 網野銚子山古墳発掘調査(平成19年度からの継続)
網野銚子山古墳(国史跡)は、全長198mを誇る日本海側最大級の前方後円墳であり、神明山古墳とともに本市を代表する首長墓です。この古墳の整備にあたり古墳の構造、範囲、施設などを確認するため範囲確認調査を実施し、後にこれまでの調査成果と併せて網野銚子山古墳の整備実施計画を策定します。
- 湧田山1号墳発掘調査(平成19年度からの継続)
前方後円墳・湧田山1号墳(府史跡)の前方部付近の崩落が危惧されるため、保全対策を検討するための範囲確認調査を実施します。
- 森本大谷城跡・森本大谷古墳群発掘調査(本年度新規)

大宮町森本地区の工業団地造成に伴い、開発予定地にある埋蔵文化財の発掘調査を実施します。



網野銚子山古墳での説明会

豪商稲葉本家の貴重な資料を紹介します

■稲葉家資料展示活用事業
【教育費】(新規)214万円
(教育委員会事務局 文化財保護課)

豪商稲葉本家には、江戸時代から昭和20年代にかけての古文書・民具などが大量に残されていました。これら貴重な資料の適切な保管を図るため、内(うち)蔵の一つを収蔵庫に改造するとともに、民具資料については台帳化して管理しています。

また、これらの資料を市民のみなさんに見ていただくために、内蔵を活用して年間を通じた展示を行うとともに、春と秋には記念講演会を開催する予定です。



豪商稲葉本家内蔵展示

V 共に築き、結び合う パートナーシップ都市

1 地域コミュニティの強化

地域づくり、まちづくりを推進します

■地域まちづくり支援事業補助金
【総務費】(継続)60万円
(企画政策部 企画推進課)

地区などが自発的な地域づくりを計画的に進めるために策定される「地域まちづくり計画」の作成経費を助成します。

「地域まちづくり計画」とは、計画的に自分たちの「まちづくり」を展開するために、地域の魅力と課題を調査した上で、自らの力で地域を守り創りあげていくための目標・基本方針・実施計画など(いつ、どこで、だれが、どんなことを、どのようにやるのか)を定めるものです。



■地域集会施設整備費補助金
【総務費】(継続)1,805万円
(企画政策部 企画推進課)

地区が実施される集会施設の新築・増改築事業や、地区所有施設の修繕に要する経費を助成し、地域コミュニティ活動を支援します。



昨年新築された奥大野公民館

■地域振興基金の積立
【総務費】(継続)3億320万円
(総務部 財政課)

市民のみなさんの連帯強化および均衡ある地域振興を図ることを目的に、合併特例債(市債)を活用して地域振興基金を積み立てます。

合併以降、毎年3億円積み立ててきた地域振興基金は、積み立てのために発行しました合併特例債の元金償還が終わった額の範囲内で取り崩しが可能なため、本年度は9,000万円を取り崩し、地域振興に活用することとしています。

地域振興基金の状況	
平成16年度末残高	3億円
平成17年度末残高	6億8万円
平成18年度末残高	9億58万円
平成19年度末残高	12億201万円
平成20年度末残高見込	14億1,521万円

2 協働と共創のまちづくりの推進

京丹後市の現状と成果を発信します

■(仮称)京丹後市白書作成経費
【総務費】(新規)110万円
(秘書広報広聴課)

市民のみなさんに市政への関心や理解をより一層深めていただき、市民のみなさんが主体となったまちづくりをさらに推進していくため、市政の状況や政策課題などに対する、さまざまな取り組みの現状、成果などをお伝えする冊子を作成します。



京都府が発行した「平成18年度京都府白書」(アクションプラン版)